

第 429 回定例研究報告会

2018 年 7 月 26 日

国際石油情勢の展望

< 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット 石油グループマネージャー
研究主幹 森川 哲男

2018-19 年の原油価格の展望

1. 世界の石油需要は 2018 年から 2019 年にかけて 130 万 b/d 程度増加する。サウジアラビア等はイラン・ベネズエラの減産量を補うべく増産し、米国の増産と相まって、フローベースでは 2019 年に若干の供給超過（15 万 b/d 程度）となる。
2. 国際原油 (Brent) 価格は、2018 年下期平均で \$75/bbl、2019 年平均で \$70/bbl を中心水準として、価格ボラティリティが上昇すると予測する。
3. その理由としては、サウジを中心に余剰生産能力が低下する一方で、イランの減産と情勢流動化、テロやホルムズ海峡での安全航行懸念等、中東の地政学リスクが高まり大規模供給支障への不安があること、米中間を中心とする貿易戦争の帰趨が影響することなどが挙げられる。

需要動向

4. 世界の石油需要実績は、2018 年第 2 四半期で前年同期比 90 万 b/d (0.9%) 増加の 9,880 万 b/d であった。価格上昇が影響し、需要増加は鈍化している。
5. 世界経済は堅調さを維持するが、貿易戦争や米利上げの影響といった懸念事項があり、2018 年から 2019 年にかけては 130 万 b/d (1.3%) 程度の需要増加を想定する。仮に貿易戦争が激化すれば需要下押し要因となる。
6. 米国では、好調な石化や物流部門に下支えされて、LPG や軽油を中心に需要が堅調に伸びている。2018 年第 1 四半期の需要は前年同期比で 73 万 b/d (3.8%) 増の 2,021 万 b/d となっている。貿易戦争の激化や利上げにかかわるマクロ経済リスクはあるものの、需要は現時点では底堅い。
7. 中国では、2018 年第 1 四半期の需要増加は前年同期比 46 万 b/d (3.8%) 増の 1,247 万 b/d となっている。石化用が需要増を牽引している。対米貿易戦争の影響が懸念されるが、現時点では需要は堅調である。

供給動向

8. 世界の石油供給量実績は、2018年第2四半期に前年同期比150万b/d(1.5%)増加の9,850万b/dと同時期では若干の供給不足であった。6月時点でのOPECの減産目標順守率は100%と、前月の152%から大幅に低下した。
9. トランプ政権が5月にイラン核合意からの離脱を表明し、イラン原油輸入国に対して輸入停止を要請したことで、イランの急激な生産量減少が懸念されている。2018年6月からの減産量は、2018年末までに約100万b/d、2019年末までに約150万b/dに達する可能性があるが先行き不透明である。
10. また、トランプ政権による5月の対ベネズエラ追加制裁によって、ベネズエラの2018年6月からの減産量は2018年末までに約40万b/d、2019年末までに約60万b/dに達する可能性がある。
11. OPEC及び非OPECの協調減産参加国は、6月22-23日に会合を開き7月から減産幅を緩和することを決定した。この決定を受け、サウジアラビアを中心に増産することになる。サウジアラビア等がイラン及びベネズエラの減産量を相殺することは可能であるが、OPECの余剰生産能力は低下し、急激な需給変動に対する脆弱性が増すことから、価格ボラティリティ上昇要因となる。
12. 米国の原油生産量は2018年第1四半期に前年同期比で123万b/d(13.7%)も伸び、1,024万b/dに達した。シェールオイルの生産性向上やリグカウンットの増加は、直近では頭打ちとなっているが、掘削済未仕上げ杭井数は過去最大であり、増産基調自体は維持されると想定する。米国を中心とする協調減産不参加国の生産量は2018年から2019年にかけて180万b/d程度増加する。

以上